

水俣騒動ますます陰悪化

警官とこぜり合い

漁民百五十人が座込み

工場側回答二千万プラス三千万円を拒否して、十七日午後三時水俣市新日竊和会館に乱入、同三時半交渉打ちを西田同工場長から示され、七時半ごろから同会館を外側からカン詰にした（一部既報）水俣漁協（三百人）は同日午後十二時ごろ支関口で唐辛子かコショウのようなものをたき狸イブシをかけた。さらに組合員らは同会館内にカン詰にされた百人余の人たちを二歩も外に出さず、自分たちは交代で不審審をたて表通りや裏側の工場排水溝付近に睥睨をとり十八日午前五時ごろになつて再び狸イブシをはじめなどついに徹夜の座込みに入り、事態はますます悪化してきた。

このため水俣署のほかに東北、人吉、松橋、八代、宮原各警備で編成した機動部隊二個中隊がすでに同所に向着。

同朝九時五分西田工場長から、十七日の交渉打ち以後現在までの状況は正常な交渉をつづけることの不可能な実情（監禁状態）であると認めるので工場側交渉委員は同会館から退去したいので、退去が田舎に行なわれ

るよう願うとともに同九時十五分までに漁民側から協力がなければ組合は退去すると申出た。これに対し漁協側では工場側の申入れは組合長不在につきその意

思はそうここではできない」と回答
同九時十分支関付近の漁民約百人が再び同会館に入ろうとしたので、待機中の機動部隊約百五十人と水俣署一個小隊計約百人が阻止しようとしたが収拾つかず、ついに実力行使となり双方もみ合い、警官側五人、組合員九人、新日竊保安係一人、計十五人の軽傷者を出した。

その後組合員らは、新日竊工場正門前および尚和会館前にデントを張り座り込んだが午前十二時四十五分新日竊正門内から出ようとする機動部隊一個小隊を溝外に出すまいと漁民約百五十人がおしか